



国際的に活躍する専修人を紹介する「Globali 専tion (グローバル「専」ション)」。今回はブータンでサッカーユース代表のゴールキーパー(GK)コーチを務める田巻直樹さん(平29文)に登場いただく。

ブータンフットボールアカデミー ゴールキーパーコーチ

田巻 直樹さん(平29文)

NAOKI TAMAKI

「幸せの国」に勝利の喜びを

—「幸せの国」と言われるブータンで、どうしてサッカーの指導を？

大学卒業後、中学校で英語を教えていたのですが、更に深めたいと、オーストラリアで英語教授法を学びました。資格を取り、現地で英語教育に携わっていましたが、コロナで帰国。再び中学校で教えながら川崎市のサッカー中学選抜チームの指導に関わっていました。その時に日本サッカー協会(JFA)の指導者派遣について知り、海外でサッカーを指導できるチャンスだと思い、応募。選考を経て2022年6月にブータンフットボールアカデミーのGKコーチに就任しました。

アカデミーにはU-14、U-16、U-19の三つのカテゴリーがあり、全土から選抜された選手計約70人が、寮生活を送りながら練習と勉強に励んでいます。現在のU-19代表監督も日本人です。私は3カテゴリーすべてのGK指導を担当しています。

—ブータンのサッカー事情は、
FIFAランク185位と低いですが、サッカー人気は高い

です。昨年のワールドカップも盛り上がり、日本を応援してくれました。アカデミーの選手たちはサッカー一筋。ただ、シャイで、体も華奢な選手が多いです。世界と戦うためには、心身ともにもっと鍛えなくてははいけません。指導は英語で行い、シンプルで分かりやすく、を心がけています。目を見て話すこと、選手たちの気持ちを汲み、モチベーションを上げていくことを大切にしています。

—これまでの経験が今につながっていますね。

高校まで熱中したサッカーをけがで断念しましたが、その後も少年チームや中学生チームの指導をした経験は大きいです。もう一つは英語。大学1年次に、国際交流会館に遊びに行つて外国人の友人ができ、2年次には短期留学で米国へ。でも全く英語ができなくて、帰国後猛勉強しました。そのかいあって、4年次には長期交換留学で再び渡米。1年間、充実した生活を送りました。サッカーと英語が、自分の人生に大きく関わり、今につながっていると感じています。もちろん、ブータンでサッカー指



導なんて、大学入学時には想像もしていませんでしたが、—今後の目標を教えてください。

ブータンは、国際試合ではなかなか勝てないので、選手たちに勝つ喜びを伝えてあげたいですね。また、GKの指導者を育成したいです。ここでの任期は24年6月までですが、その後も何らかの形でサッカーを通じて国際貢献したいと思っています。

専大生へのメッセージ

Practice makes perfect!

「好き」を大事にすることが、外国語習得のコツだと思います。私の場合はサッカーでしたが、「好きなものを英語で学ぶ」ことを心がけると上達につながります。日本人は中学校から英語を勉強しているにもかかわらず、英語を話したくない傾向があります。英語もサッカーも一緒に、どんなに良い教科書を使って勉強したり、動画を見たりしても、実際に英語を使ったり、ピッチでプレーしたりしないと絶対にうまくなりません。失敗を恐れず、挑戦してください!

留学OBによるグローバルキャリア講演会

「海外でチャレンジを」

留学を志す学生に向けてとして活躍する。留学OBによるグローバルキャリア講演会が5月15日、神田キャンパスのグローバルフロアで開かれた。ニュージールランドで弁護士として活躍する佐藤慎平さん(平18商)が「NZ留学体験とグローバルキャリア」と題して講演した。



佐藤さんは4年次に長期交換留学でNZのワイカト大学に1年間留学。商社勤務を経て30歳を前にNZに渡航して永住権を取得し、現在は弁護士として活躍している。

に向けて、「英語の検定試験は積極的に受けた方がいい。自分の力を見極めたい」と助言した。

シンポジウム 「裁判員裁判とえん罪防止」

法教育と再審テーマに議論



第1部コーディネーターの飯教授(左)。右は法教育活動を紹介した山川さん

法教育と裁判員制度、えん罪について考えるシンポジウム「裁判員裁判とえん罪防止」が5月20日、神田キャンパスでの対面とオンラインのハイブリッド方式で行われ、専修大学法社会学ゼミ、裁判員ラウンジ、裁

た。法社会学ゼミの山川航さん(法3)は、所属する学外団体の活動を紹介します。楽しく法教育が受けられるように、大学生がより若い世代に向けて活動している」と語った。

第2部では、日本の再審手続きをテーマに、弁護士らが現行制度の問題点と再審法改正に向けた取り組みを解説した。

全国自治体が地域の魅力紹介 全国各地の魅力を伝えるための合同説明会「自治体による地域の魅力説明会」が5月18日、オンラインで開催され、100人の学生が参加した。

本学と「Uターン就職促進協定」を締結している自治体を中心に、37府県市が参加。そのほかの地域に関しては、厚生労働省委託事業の「地方

自主練習重ね 全国の舞台へ

男子400メートル 標準タイム突破

陸上競技部 細谷 柁真さん(人間科学3)



関東学生選手権決勝でダイナミックにハードルを飛び越える細谷さん(右から2人目)

標準タイム突破

細谷柁真さん(人間科学3)は陸上競技部に所属している。だが、彼の競技種目は400メートルハードルで、部として活動していない短距離。普段は一人で練習に励み、大会に臨んでいる。練習メニュー決め、タイム計測、改善点を出すことなど、全て一人で進めている。大切にしていることは「自分の立てた目標に対して、サボったり、気持ちが折れたりしないよう、いかに自分をコントロールするか」という。常



銀メダルを手に会心の笑みを見せた

に戦う相手は自分だ。先月行われた関東学生陸上競技対校選手権大会の男子2部・400メートルハードル決勝で51秒42を記録し、準優勝を果たした。「緊張やプレッシャーを力に変えることができる」という自身の強みを遺憾なく発揮した。

この記録は9月に行われる日本学生陸上競技対校選手権大会(インカレ)の参加標準記録を切っており、出場権を獲得した。専大附属高校3年時にはインターハイ出場を目標にしていたが、コロナ禍で大会は中止に。意気消沈したが、大学のステージで待望の全国大会出場が決まった。

「絶対に準決勝には進みたい」と意気込む。さらに、「日本選手権の参加標準記録が50秒30なので、来年はそれを突破し、日本選手権に出場して卒業したい」と高いハードルを掲げる。

インカレまで残り3カ月。自身の名を全国へ轟かせるために、細谷さんは今日も黙々と10台のハードルを飛び越える。

文・写真 河上明来海さん
(文3・専大スポーツ編集部)

就職だより

「4年次生へ」公務員志望者のためのキャリア支援講座(実践編)公務員人物対策講座(国家一般職、国家専門職等面接力1対1対策編)を6月20日(火)にオンラインで実施します。作成が難しいと感じる学生が多い面接カードについて、実践的に分かりやすく解説します。詳細はin Cam pusで確認し、積極的に活用してください。

また、本学学生の採用意欲の高い企業から求人情報も多く届いています。

「3年次生へ」地方企業を対象とした企業説明会を6月17日(土)にオンラインで開催します。北海道から沖縄県まで、日本全国の魅力ある企業が、仕事内容や地元との関わり方などに関する情報をオンラインにて説明します。自らの可能性を広げるためにも、貴重な機会となります。ぜひ積極的に参加してください。詳細はin Cam pusにて確認してください。



学生の視野を広げるとを狙いとして、イベント詳細については、